

チェックテスト 解答

1章 日常生活活動とは

1 ADLの領域 (p.8)

- ①
日常生活活動
- ②
食事、整容、更衣、排泄、入浴、移動、コミュニケーション、環境機器や器具の操作、性的な表出など
- ③
電話の使用、買い物、食事の支度、家屋維持、洗濯、外出時の移動、家計管理、健康管理、安全管理など
- ④
精神機能の低下や認知機能の低下が大きく影響する

2 ADLの評価の歴史 (p.13)

- ①
米国ニューヨークの医師 G. G. Deaver と理学療法士 M. E. Brown
- ②
ADL, 仕事 (work) , 遊び (play)
- ③
セルフケア (self-care) , 生産活動 (productivity) , レジャー (leisure)
- ④
不可。単なる離床目的で車椅子上での座位を取らせる場合は該当しない
- ⑤
訪問リハビリテーション, 通所リハビリテーション, 介護老人保健施設, 介護医療院, 介護療養型医療施設において算定できる

3 ADLの評価に必要な知識 (p.15)

- ①
解剖学, 生理学, 運動学
- ②
環境因子への対応を行う
- ③
ICF の評価に合わせて, 座位能力評価を行う
- ④
2017 年より診療報酬の算定が可能になり, 医療機関でもシーティング評価とその対応が可能となった。例えば, 脳卒中片麻痺などで実用性歩行の難しいクライアントに対するリハビリテーションでは, ICF の評価に合わせて, 作業療法士が座位能力評価や対応を行う必要がある。また, 在宅復帰となるクライアントに対しては介護保険制度を利用した多職種連携のシーティング・チームによる対応が重要となる

4 ADLの評価法 (p.29)

- ①
食事, 車椅子とベッド間の移乗, 整容, トイレでの動作, 入浴, 移動, 階段昇降, 更衣, 排便自制, 排尿自制
- ②
2~3 段階 (項目によって異なる)
- ③
セルフケア, 排泄コントロール, 移乗, 移動, コミュニケーション, 社会的認知
- ④
入浴, 更衣, トイレに行く, 移乗, 尿便禁制, 食事
- ⑤
身体状況, 上肢機能, 下肢機能, コミュニケーションと視覚, 排尿・排便機能, 支援要素
- ⑥
屋内での生活はおおむね自立しているが, 介助

なしでは外出できないレベル

⑦

15 項目（食事の用意，食事の後片付け，洗濯，掃除や整頓，力仕事，買い物，外出，屋外歩行，趣味，交通手段の利用，旅行，庭仕事，家や車の手入れ，読書，勤労）

⑧

運動技能とプロセス技能

5 ADLにおける作業療法支援法 (p.33)

①

4段階で実施する。第1段階でクライアントが「したい」「する必要がある」作業を決め（問題の決定），第2段階では第1段階で選択した作業の重要度を10段階で評定する（重要度の評定）。第3段階で取り組む作業を5つ以内に絞り，遂行度，満足度について10段階で評定する（作業の決定と採点）。第4段階では作業療法実施後，遂行度と満足度を期間をあけて評価する（再評価）。

②

意志，習慣化，遂行技能

③

生活行為聞き取りシート，生活行為向上マネジメントシート，生活行為申し送り表

④

筋力，関節可動域，持久性

⑤

残存機能の利用：残存機能を向上させ，今まで行っていた方法とは異なる形態での作業遂行を促進する（利き手交換など）

物理的代償：自助具などで身体機能を補完して活動を可能にする

人的代償：ヘルパーなどの人的代償により，活動できるようにする

6 ADLと福祉用具 (p.55)

①

座位保持装置，起立保持具，頭部保持具，排便補助具の4種目

②

車椅子，車椅子付属品，特殊寝台，特殊寝台の付属品，褥瘡予防用具，体位変換機，手すり，スロープ，歩行器，歩行補助杖，認知症老人徘徊感知機器，移動用リフト，自動排泄処理装置の13種目

③

腰掛便座，自動排泄処理装置の交換可能部品，入浴補助用具，簡易浴槽，移動用リフトの吊り具

④

床走行式リフト，天井走行式リフト，設置型リフト，据置型リフト

⑤

ハーフサイズとフルサイズ（ハイバック）の2種類のサイズがある。ハーフサイズは頭部を自分で支えられ，座位が安定している場合に使用可能。フルサイズは頭部の支持が困難で，座位が不安定な場合に使用可能。

また各サイズには，それぞれ脚分離タイプとシートタイプがある。脚分離タイプは座位で装着可能であるが，股関節の可動域制限があるクライアントには不向き。シートタイプは背臥位で装着し，股関節に可動域制限のあるクライアントにも使用可能。

⑥

普通型車椅子の多くはシートの幅や奥行きを調整できないが，モジュラー車椅子は使用者の身体寸法に合わせてシート幅などを調整できる

⑦

一般的に，立位で腕を下げた状態で手関節部の

高さ，または大腿骨大転子の高さの位置に合わせる

⑧

リーチャー：関節リウマチのクライアントなど，関節可動域制限や痛みにより目的のところまでのリーチが困難な場合に使用する

ボタンエイド：手指の巧緻性の低下により，ボタンの留めはずしが困難な場合に使用する

ソックスエイド：膝・股関節の関節可動域制限により足部に手が届かず，靴下を履くことが困難な場合に使用する

7 作業療法における福祉用具 (p.63)

①

「人－環境－作業」の関係

②

リハビリテーション工学の障害者支援技術

③

環境因子と個人因子

④

身体的，精神的，かつまた社会的に最も適した機能水準の達成を可能とすることによって，各個人が自らの人生を変革していくための手段を提供していくことを目指し，かつ時間を限定したプロセスである

⑤

中間ユーザーおよび福祉用具にかかわる専門職として，他職種，福祉用具メーカー，関連機関・団体などに対して，福祉用具の利用情報の提供や，研究・開発への助言・提言を行う

⑥

介護支援専門員（ケアマネジャー），福祉用具専門相談員，建築士・福祉住環境コーディネーター，福祉用具プランナー，介護福祉士やホームヘルパー

⑦

福祉用具のローテクノロジーとハイテクノロジーの両方への精通，福祉用具の適切な処方（選定・適合方法）およびそれらの組み立てや適合・使用方法の理解，支援サービスを在宅サービスに用いる場合の方法やプロセスの理解，福祉用具をクライアントに提供，または変更するタイミングへの理解

⑧

事前に確認する必要がある。一定期間内に現在のリハビリテーションでどこまで達成できるのか，また障害が残った場合は車椅子を利用すれば自立した生活が可能になるなど，具体的な提示が必要になる

⑨

発達障害児・者や身体障害者，高齢者が椅子・車椅子，または座位保持装置を適切に活用し活動と参加の支援

⑩

身体寸法計測，Hoffer 座位能力分類，マット評価

8 ADLの関連制度 (p.69)

①

バリア（障壁）とフリー（自由な）を組み合わせた造語で，建築などにおいて身体障害者に対する物理的障壁を除去することを指す

②

年齢，能力，体格，障害の有無の区別なく，誰もが使いやすいデザインのこと

③

(1) 旅客施設・車両など，道路，路外駐車場，都市公園，建築物に対してのバリアフリー化，
(2) 駅を中心とした地域や，高齢者や障害者などが利用する施設が集中する地区における

バリアフリー化

④

特別支援学校

⑤

障害者総合支援法

⑥

治療訓練用具（03），義肢・装具（06），パーソナルケア関連用具（09），移動機器（12），家事用具（15），家具・建具，建築設備（18），コミュニケーション関連用具（21），操作用具（24），環境改善機器・作業用具（27），レクリエーション用具（30）

9 福祉用具と座位能力評価（p.78）

①

腰椎部は軽度前彎，胸椎部軽度後彎，頸椎部は軽度前彎のカーブになっている

②

椅子や車椅子上の座位状況を評価する

③

滑り座り，円背，斜め座りなどの問題が起こる状態

④

座位能力3：座位不能

⑤

使用する車椅子の寸法やクッションを決めるため

⑥

重力除去位での骨性の円背，側彎や筋緊張などを評価するため

⑦

リフト

⑧

褥瘡がある場合や既往，殿部などの痛みがある場合に，問題の確認や車椅子クッションの選定

を行うため

⑨

車椅子の各部品が独立したパーツになっており，目的によって選択，調整し，組み立てられる

⑩

簡易座位能力Ⅲレベル

10 福祉用具と住環境整備（p.82）

①

通常歩行は80cm，両松葉杖歩行は120cm

②

32cm

③

全長105～110cm

④

65cm（全幅）

⑤

廊下を通過するときは90cm，立ち止まっている人とのすれ違うときは120cm

⑥

直径150cm

⑦

敷居の角を丸くしたり傾斜をつけたりする

⑧

最低でも1/12以下